

協議員・参院国交委

協雅史参議院議員は31日の参院国土交通委員会で、予定価格の在り方と落札率を重視する考え方を問題視した。発注者がさまざまな実勢価格に基づいて算出する予定価格を大きく下回る金額で契約する現状を歓迎する傾向に対して、「予定価格の性格が問われるだけでなく、実勢価格に基づいた予定価格を大きく下回ってまで落札するのは、労働者からの詐取を発注者が認めることにはかならない」と、公共調達の発注者の姿勢を批判した。

予定価格の在り方と落札率重視を問題視

さらに、安ければその分だけコスト削減になることを理由に、低価格競争に歯止めをかけない地方自治体に対して、「もし落札率の低さを自治体や首長が成果にするならば、市場の実勢価格を反映させなければならぬのにそうできなかった予定価格算出担当者を処分する必要がある」と厳しく指摘した。

落札率を違法性やコスト削減の目安にする傾向が広がっていることについては、「予定価格が実勢価格に基づいて正当性があると官の積算を信じらるならば、落札率は10

単なる参考値の位置づけも

0%に近い数字が合理的であるはず」とする一方、「仮に積算を信じないことを前提にしても、逆にいい加減な予定価格に対する落札率も意味がない」と主張した。

その上で、協議員は「市場原理に基づけば、実勢価格にも幅を持たせることが考えられる。予定価格をたんなる参考値と位置づける考えもある」と、予定価格の性格の変更にも言及した。

協議員の予定価格の在り方に対する質問に対して財務、国土交通両省は、従来通りの考え方を示すにとどまった。